

【2024 年度地域連携事業費報告書】

スポーツを通じた交流が共生社会の実現にもたらす効果

代 表 者 : 藤田さより (聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部)
連 携 機 関 : 一般社団法人 ASOBI 寺田美穂子, 株式会社リイ 瀧崎亮,
株式会社 KidsDeveloper 八木唯斗, 小笠病院 杉野 匠, 鈴木泰樹, 齋藤想, 宮崎貴史

【はじめに】誰一人取り残されることのない共生社会の実現は医療福祉職である私たちにとって重要な課題であると考えます。一般社団法人 ASOBI では、スポーツや遊びを通じて共生社会を実現しようと取り組んでいる団体です。イベントには毎回数百名を超える多くの参加者がスポーツを通して同じ時間・場を共有することで、障害の有無や障害の違い、年齢の違い、国籍の違いを超えた交流を実現し、同じ場を共有し、共に時を過ごし、共に楽しむことで共生社会の実現への一助となっていると考えます。そこで今回、一般社団法人 ASOBI が主催する活動への参加がもたらす心理的影響および共生社会の実現に繋がる影響について明らかにしたいと考えました。これらを明らかにすることは、共生社会の早期実現に向けた手がかりとなると考えます。

【目的】本研究の目的は一般社団法人 ASOBI の企画・運営するイベントスタッフの心理的影響および共生社会の実現につながる効果があるかを明らかにすることです。

【研究方法】研究への同意の得られた対象者に半構成的インタビューを行った。インタビューの内容は、今まで参加したイベントの感想、意見、参加したことで生活上変化したと感じることなどについて尋ねた。所要時間は 30 分程度。インタビューの内容は IC レコーダーにて録音、逐語録に起こし、その後テキストマイニング分析および質的記述的分析を行った。尚、本研究の実施にあたって倫理委員会の承認を受けており、十分な倫理的配慮のもと実施した。

【結果および考察】研究対象者は、①浜松学園で開催された「まぜこぜスポーツマルシェ」へのボランティア運営スタッフ (利用者 4 名、職員 3 名)、②浜松学芸高校におけるまぜこぜスポーツマルシェにボランティア参加した高校生 3 名および教員 1 名であった。

①共起ネットワーク分析の結果、「みんなで踊ったダンスが印象的」「利用者も職員もとても楽しんで参加できた」「企画を考えることが面白かった」「企画から一緒に参加したことで成長・変化を感じた」の 4 つのカテゴリーが抽出された。

②共起ネットワーク分析の結果、「スポーツをだれもが共に楽しめるよう工夫すること・すること・見ることすべてが楽しい」「素敵な印象・雰囲気が感じるイベントであった」「自然と時間を共有し、互いに理解しあえるこの取り組みが社会を変えるきっかけ」「だれもができる競技の難しさ」「一つのコミュニティができた」となった。

以上より、若い知的障害のボランティア参加は、コミュニケーション力の向上、社会性の向上、自己効力感の向上など、成長につながり、新たな一歩を踏み出す機会となった。また高校生ボランティアにとって、障害者の理解、障害者とのコミュニケーションの促進、柔軟な対応力、共生社会に必要な要素の実感・学びとなり、これからの共生社会を創っていくリーダーとしての基盤を身に着ける機会となっていたと考えます。

・一側面だけでなく、多方面からの、多くの方々の参画が、パワーとなり、加速度的に共生社会の実現を創り上げる原動力となっていると考えます。

【地域連携の成果】今回の成果として一般社団法人 ASOBI が主催する活動が共生社会の実現に向け寄与しており、また共生社会の実現に向け必要な要素について明らかにできた。

該当欄の□を■にし、必要事項を記入してください

倫理審査	■承認番号 (24 024 - 01) □該当しない		
利益相反	■なし □あり ()		
発表状況	種 別	□著書 □論文 □学会発表 ■紀要 □その他 ()	
	年月日	2025 年度内 (□確定 ■予定)	